

知床半島ヒグマ管理計画 目標の達成状況及び評価（4年間）

○知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況および評価 ← 計画期間（2017（H29）～2021（R3）年度） →

| 「本計画の目標」 | 目標値 | 結果 | | | | | | 目標達成状況 | 主な対策 ※方策Noの後の「○△」等については各方策の実施状況を知床ヒグマ対策連絡会議で評価したもの（資料2-4参照） |
|--|----------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------|----------|---------------|--|
| | | 2016（H28） | 2017（H29） | 2018（H30） | 2019（R1） | 2020（R2） | 2021（R3） | | |
| ①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。（注4） | 75頭 (累計) | 10頭 | 21頭 21頭(28%) | 15頭 36頭(48%) | 14頭 50頭(67%) | 3頭 53頭(71%) | | 達成 (見込み) | 【平時】 誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2 ○, 6 ○, 32 ○, 35 ○, 37 △/○】 【出没時】 威嚇追い払い 【方策7 △】 |
| ②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。 | 0件 (累計) | 0件 | 1件 (注8) 1件 | 0件 1件 | 1件 (注8) 2件 | 0件 2件 | | 未達成 | 【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2 ○, 6 ○, 32 ○, 35 ○, 37 △/○】 【出没時】 出没情報の提供、問題個体の捕獲 【方策1 ○, 8 △】 |
| ③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。 | 12件 (累計) | 13件 | 4件 4件 | 10件 14件 | 17件 31件 | 16件 47件 | | 未達成 | 【平時】 利用者への普及啓発 【方策9 ○, 10 ○, 14 ○, 23 ○, 24 △, S19 △】 【出没時】 - |
| ④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。 | 10件 (累計) | 1件 | 10件 10件 | 13件 23件 | 9件 32件 | 5件 37件 | | 未達成 | 【平時】 地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等） 【方策2 ○, 6 ○, 32 ○, 35 ○, 37 △/○】 【出没時】 - |
| ⑤市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる。 | 210件 (累計) | 60件 | 96件 96件 | 84件 180件 | 136件 316件 | 38件 354件 | | 未達成 | 【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2 ○, 6 ○, 32 ○, 35 ○, 37 △/○】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7 △, 8 △】 |
| ⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。（注5、6） | 4,652千円 523 a (5年平均) | 5,524千円 609 a | 8,727千円 852a | 5,180千円 557 a | 6,127千円 561a | 3,533千円 347a | | 未達成 (見込み) | 【平時】 電気柵の整備、農業者向け普及啓発 【方策6 ○, 32 ○】 【出没時】 問題個体の捕獲 【方策8 △】 |
| ⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関する危険事例の発生件数を半減させる。 | 2件 (累計) | 0件 | 3件 3件 | 4件 7件 | 1件 8件 | 5件 13件 | | 未達成 | 【平時】 漁業者向け普及啓発 【方策32 ○】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7 △, 8 △】 |
| ⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。 | - | - | - | - | - | - | | アンケート結果に基づき評価 | 【平時】 普及啓発 【方策9 ○, 12 評価なし, 14 ○, 23 ○, 32 ○, S19 △】 【出没時】 - |

（注4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。

（注5）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29）より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。

（注6）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。

（注7）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。

（注8）ハンターによる人身事故。

計画期間4年間（2017（平成29）～2020（令和2）年度）の各目標の達成状況及び評価について、以下に詳述する。

目標① 計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。

メスヒグマの人為的な死亡総数は累計53頭（斜里町34頭、羅臼町13頭、標津町6頭）であった（表1～4）。

⇒達成する可能性が高い。

表1. 2017年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

| 年齢/町・性別 | メス | | | オス | | |
|---------|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 |
| 0歳 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 1歳 | 1 | 0 | 1 | 6 | 1 | 0 |
| 2歳 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| 3歳以上 | 10 | 4 | 2 | 5 | 6 | 6 |
| 小計 | 14 | 4 | 3 | 12 | 7 | 8 |
| 合計 | 21 | | | 27 | | |

表2. 2018年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

| 年齢/町・性別 | メス | | | オス | | |
|---------|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 |
| 0歳 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 1歳 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |
| 2歳 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 |
| 3歳以上 | 8 | 3 | 1 | 3 | 3 | 3 |
| 小計 | 8 | 6 | 1 | 5 | 8 | 3 |
| 合計 | 15 | | | 16 | | |

表3. 2019年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

| 年齢/町・性別 | メス | | | オス | | |
|---------|-----------|-----|-----|-----------|-----|-----|
| | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 |
| 0歳 | 3 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 |
| 1歳 | 1 | 0 | 0 | 6 | 3 | 1 |
| 2歳 | 1 | 0 | 0 | 2 | 2 | 1 |
| 3歳以上 | 5 | 3 | 1 | 9 | 5 | 2 |
| 小計 | 10 | 3 | 1 | 19 | 10 | 4 |
| 合計 | 14 | | | 33 | | |

表 4. 2020 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

| 年齢/町・性別 | メス | | | オス | | |
|---------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 |
| 0歳 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 1歳 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| 2歳 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 0 |
| 3歳以上 | 1 | 0 | 0 | 3 | 3 | 2 |
| 小計 | 2 | 0 | 1 | 4 | 5 | 2 |
| 合計 | 3 | | | 11 | | |

<参考情報>

年代ごとにヒグマの人為的死亡数をメッシュ別に集計し、図1に示した。

なお、斜里町と羅臼町は1990年から集計し、標津町は管理計画がスタートした2017年から集計している。

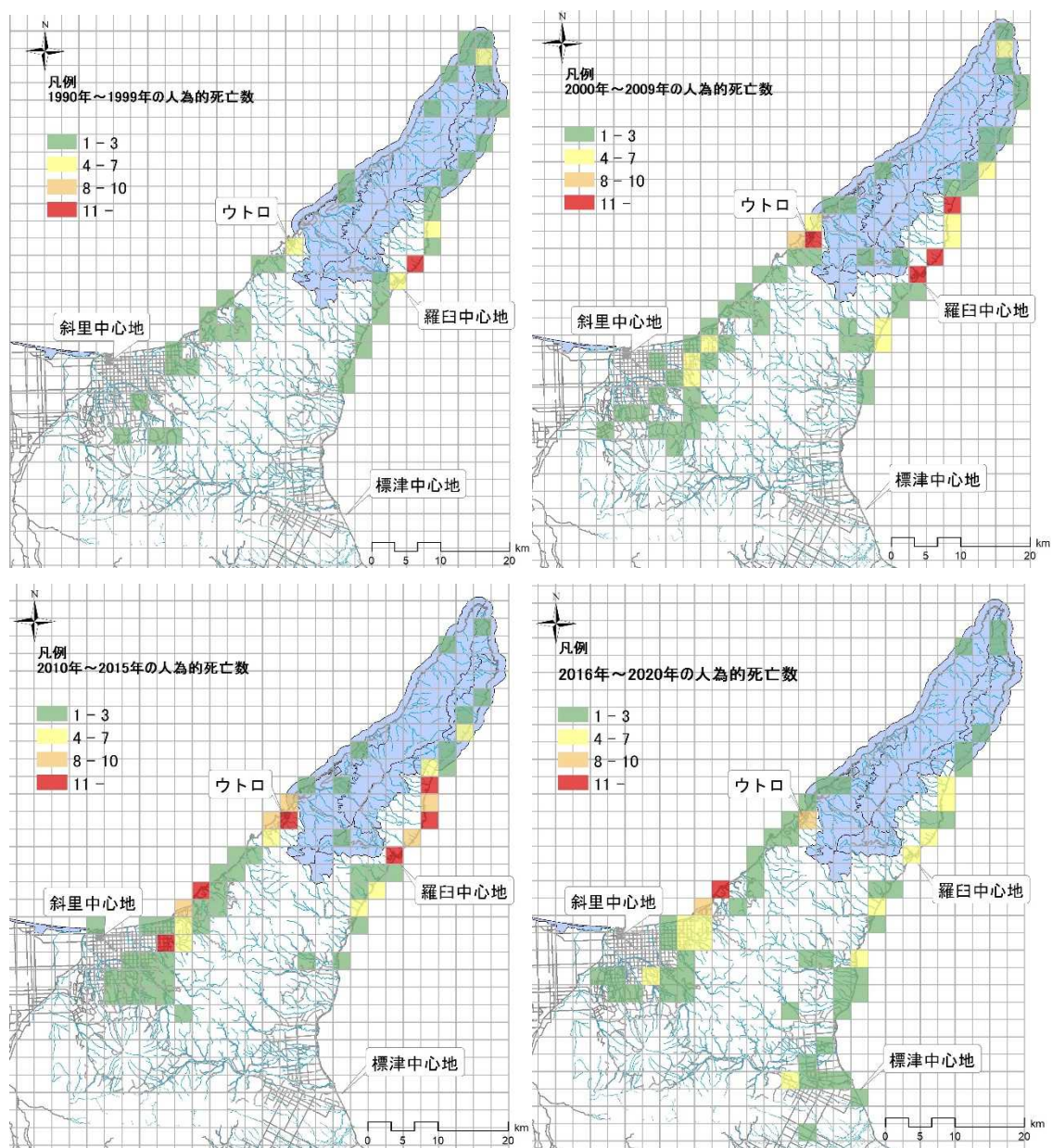


図1. 斜里町、羅臼町および標津町におけるメッシュ別のヒグマ人為的死亡数

※メッシュの大きさは縦横 2.5km

目標② 計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。

ヒグマによる人身事故は累計2件（どちらも斜里町）発生し、被害にあったのはどちらもハンターであった。

⇒未達成（確定）

目標③ 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。

利用者の問題行動に起因する危険事例は累計47件（斜里町43件、羅臼町4件、標津町0件）発生した。

⇒未達成（確定）

利用者の問題行動に起因する危険事例を行為別に分けると、撮影中が最も多く、次いでヒグマ観察中であった（表5）。撮影や観察中の問題行動に起因する危険事例は、バスデイズの取り組み強化など、国立公園内の利用環境を改善していくことで発生は抑制できる。一方、釣り中の問題行動に起因する危険事例は、国立公園の境界線や国立公園外で多く発生しており、現行法では釣りそのものや海岸への立ち入りを禁止することは困難なことなどから、問題を軽減・解消するための有効な手立てに乏しい。

過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表6に示した。

表5. 利用者の危険事例に関する行為別の発生件数（2017年度～2020年度）

| 行為 | 国立公園内 | 国立公園外 | 計 |
|------|-------|-------|----|
| 撮影 | 21 | 0 | 21 |
| 観察 | 17 | 0 | 17 |
| 釣り | 3 | 5 | 8 |
| 不法投棄 | 1 | 0 | 1 |
| 計 | 42 | 5 | 47 |

表6. 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細（抜粋）

| 年度 | 日付・場所 | 状況概要 |
|------|---------------|--|
| 2017 | 10月13日 斜里町 | 遠音別川河口で釣り人の釣った魚がヒグマに奪われる。 |
| 2018 | 6月16日 斜里町 | 0歳1頭連れ親子が出没し渋滞が発生。マナーの悪いカメラマンがクマスプレーとカメラを構えヒグマを追いかけまわす様子が目撃される。 |
| 2019 | 8月19日 斜里町 | 幌別ポンホロ林道入口付近の道路法面に0歳2頭連れ親子グマが出没。10台程車両が停車し、降車する人多数確認。 |
| 2020 | 7月31日 斜里町 | 釣り人が釣った魚をヒグマに奪われる。この釣り人は幌別の釣りを守る会の会員からヒグマが出没しているため釣りをやめるよう注意を受けたにも関わらず、釣りを続けた。 |

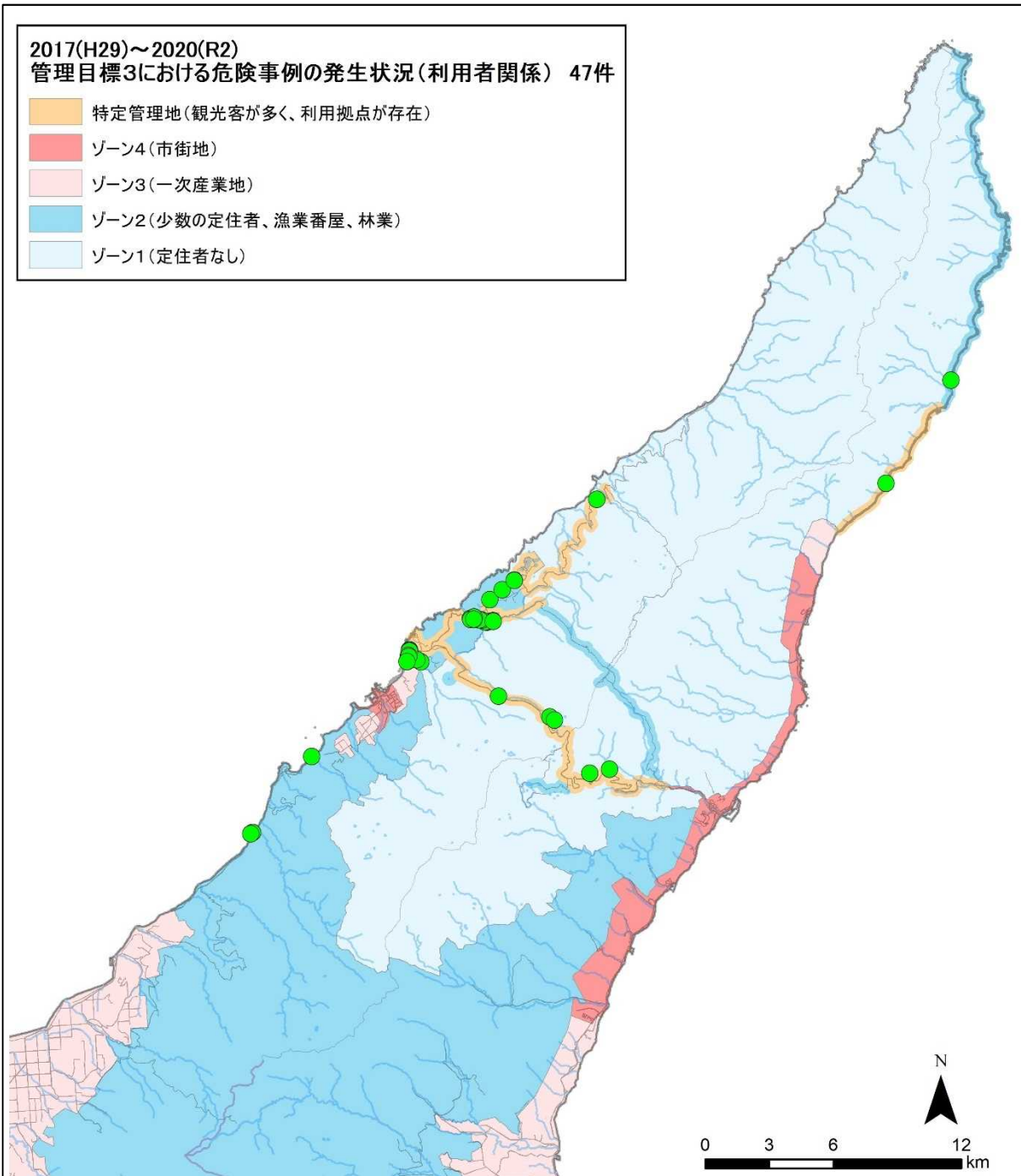


図2. 利用者の問題行動による危険事例の発生位置

目標④ 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。

地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は累計 37 件（斜里町 9 件、羅臼町 27 件、標津町 1 件）発生した。

⇒未達成（確定）

地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は、地域住民による危険事例が最も多く、次いで事業者（水産加工関係）であった（表 7）。地域住民では、干し魚や不法投棄に関する危険事例、事業者（水産加工関係）では、生ゴミ（加工残渣）に関する事例が多かった。

過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表 8 に示した。

表 7. 地域住民や事業者の危険事例に関する関係者別・原因別の発生件数 (2017 年度～2020 年度)

| 関係者 | 干し魚 | 生ゴミ | 不法投棄 | その他 | 計 |
|-------------|-----|-----|------|-----|----|
| 地域住民 | 9 | 3 | 7 | 2 | 21 |
| 事業者(水産加工関係) | 0 | 8 | 0 | 1 | 9 |
| 事業者(観光関係) | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| 計 | 9 | 12 | 7 | 9 | 37 |

※生ゴミには加工残渣も含む

表 8. 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細（抜粋）

| 年度 | 日付・場所 | 状況概要 |
|------|---------------|--|
| 2017 | 10月28日 斜里町 | ウトロ東地区の住宅の干し魚がヒグマに奪われた。 |
| 2018 | 7月14日 羅臼町 | 岬町住宅地の山側斜面で、広範囲にわたってヒグマ痕跡を確認。海岸側でヒグマによって食べられたと推測される新巻鮭を発見した。 |
| 2018 | 8月19日 羅臼町 | 麻布町において、建物の外に置いていた魚の残渣入れがヒグマに荒らされていた。 |
| 2018 | 8月15日 斜里町 | 峰浜地区の農地に大量の食品関係系ゴミが投棄され、ヒグマが餌付く状況が発生。 |
| 2019 | 7月27日 羅臼町 | 峯浜町でヒグマに飼い犬を食べられた（2019年度2件目）。 |

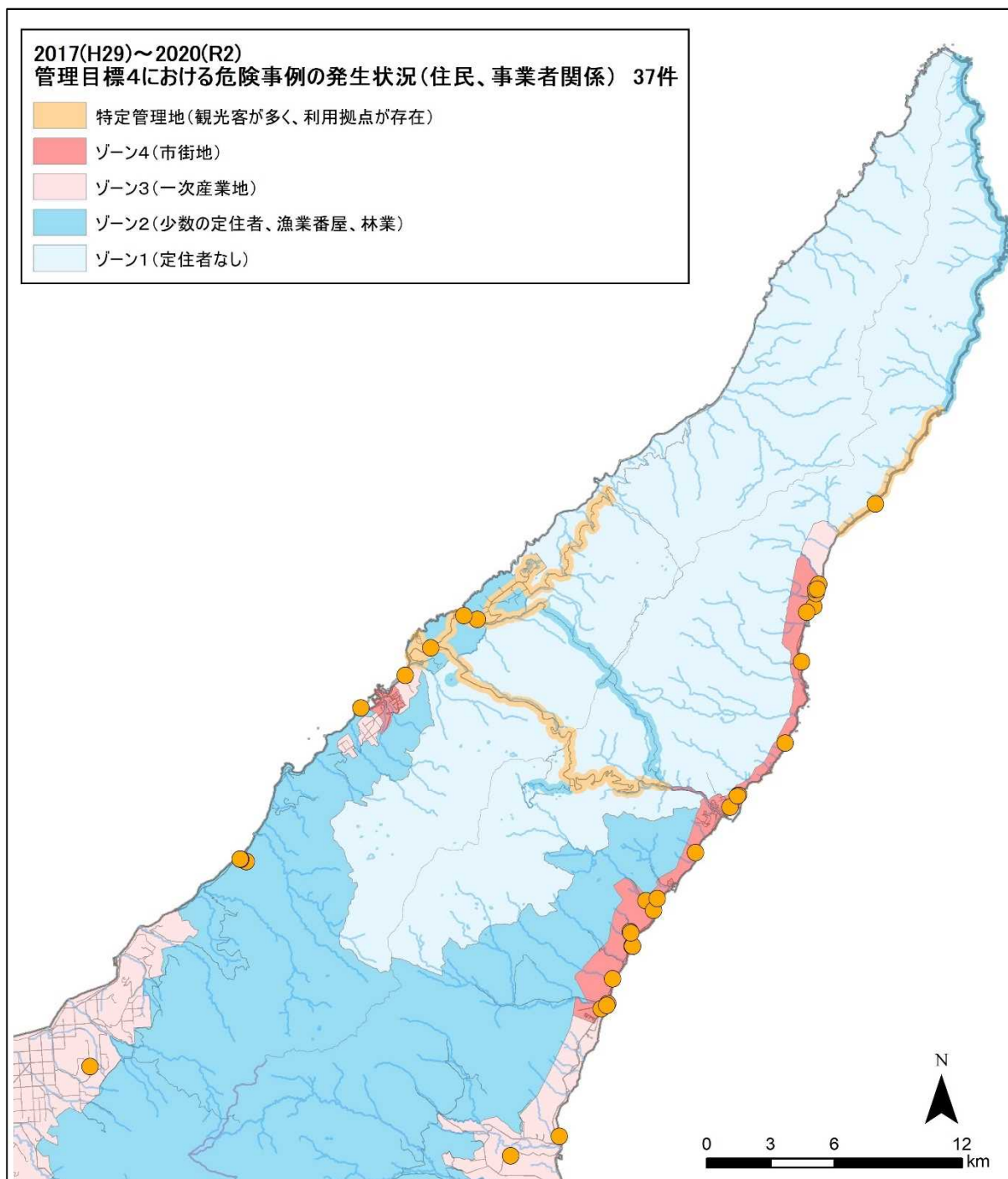


図 3. 地域住民や事業者の問題行動による危険事例の発生位置

目標⑤ 市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる。

市街地（ゾーン4）の出没件数は累計354件（斜里町20件、羅臼町325件、標津町9件）発生した。

⇒未達成（確定）

4年間のゾーン4への出没事例、累計354件のうち、羅臼町は9割を超える（表9）。南北に長い市街地を有する羅臼町は、斜里町や標津町と比較し、ゾーン4とゾーン1・2の接する範囲が広く、ゾーン4への出没を抑制しにくい。

表9. 町別・年別の市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数（2017年度～2020年度）

| 町 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 計 |
|-----|------|------|------|------|-----|
| 斜里町 | 5 | 6 | 5 | 4 | 20 |
| 羅臼町 | 91 | 78 | 124 | 32 | 325 |
| 標津町 | 0 | 0 | 7 | 2 | 9 |
| 計 | 96 | 84 | 136 | 38 | 354 |

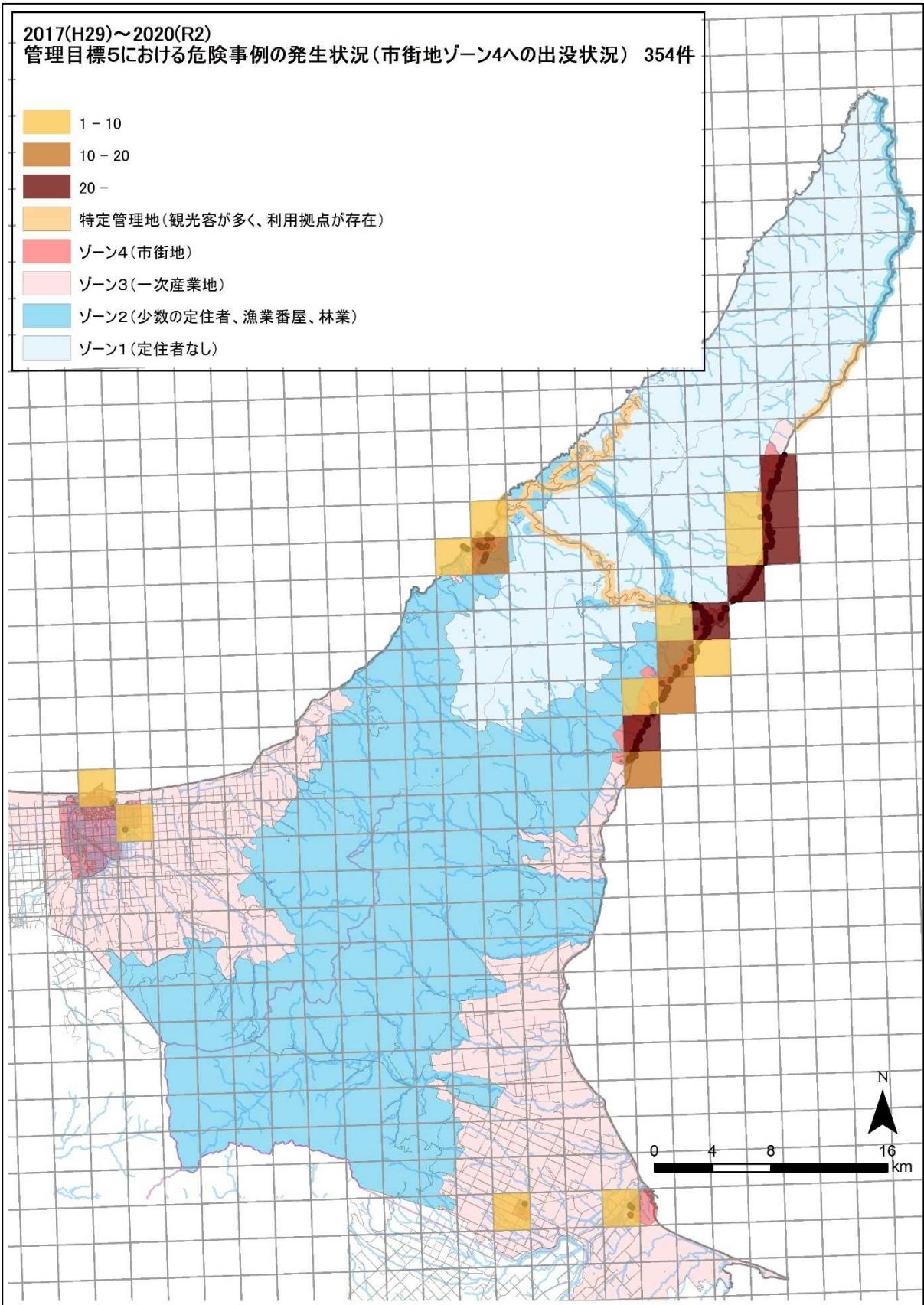


図4. 市街地(ゾーン4)への出沒発生位置

目標⑥ 斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。

斜里町の農業被害額及び被害面積は4年間平均5,892千円、579aであった。

⇒未達成となる可能性がある。

目標⑦ 漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を半減させる。

漁業活動に関係する危険事例は累計13件（斜里町9件、羅臼町4件、標津町0件）発生し、すべてがヒグマに起因する危険事例であった（表10）。

⇒未達成（確定）

過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表11に示した。

表10. 漁業活動に関係する危険事例の発生件数（2017年度～2020年度）

| 危険事例別 | ヒグマの接近行為 | 定置網被害 | 番屋被害 | 計 |
|---------------|----------|-------|------|----|
| 人が起因となる事例 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| どちらともいえない危険事例 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ヒグマによる危険事例 | 8 | 3 | 2 | 13 |
| 計 | 8 | 3 | 2 | 13 |

表11. 漁業活動に関係する危険事例の詳細（抜粋）

| 年度 | 日付・場所 | 状況概要 |
|------|--------------|---|
| 2017 | 6月29日 斜里町 | 蛸岩付近のマスの定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。 |
| 2018 | 7月18日 羅臼町 | 滝ノ下の漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出沒せず捕獲には至らなかった。 |
| 2019 | 7月24日 斜里町 | 蛸岩付近の海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。 |
| 2020 | 8月7日 斜里町 | 幌別川河口にヒグマ（19MS01）が出没。漁業者が作業を中断し、避難。ヒグマは漁業者を見ても逃げず、作業場をうろうろしていた。 |

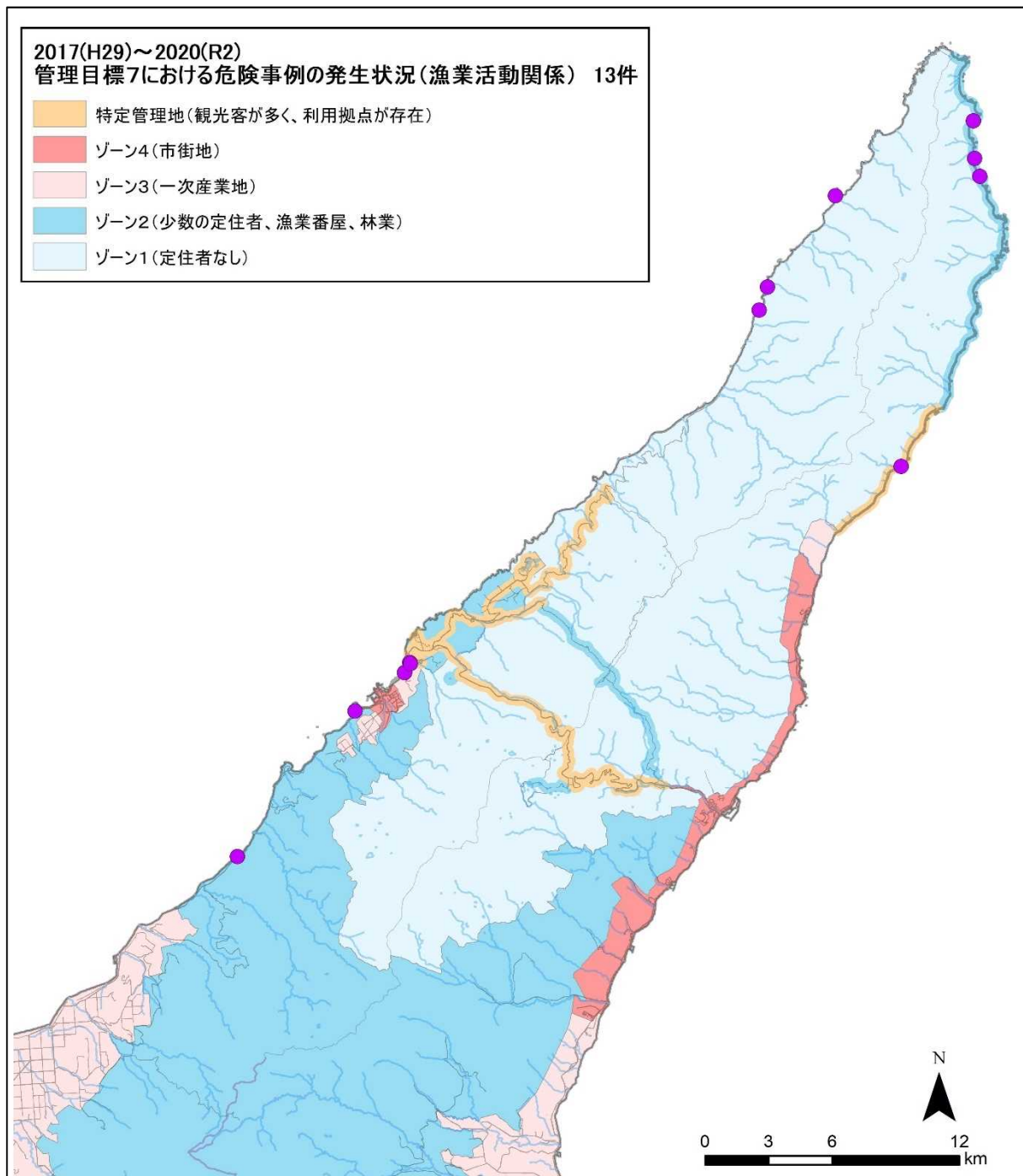


図 5. 漁業活動に関する危険事例の発生位置

目標⑧ ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。

数値目標の設定無し。地域住民や利用者への普及啓発活動の内容や回数は集計中。2021 年度に地域住民・公園利用者を対象としたアンケート調査が実施される予定である。

ヒグマに関する危険事例・注意事例の定義

1. 危険事例について

【危険事例の定義】

ヒグマによる人身事故につながる可能性の高い事例、経済被害（農業被害を除く）を伴う事例を危険事例とする。

- 人身事故は危険事例に含めない。
- ヒグマを見物するための渋滞（クマ渋滞）に関する交通事故は含めない。
- 軋轢の順位は、人身事故＞危険事例＞注意事例。注意事例については後述。危険事例や注意事例はヒヤリハット事例を想定する。

【危険事例の分類】

危険事例は以下の3種に分類される。

| 種類 | 内容 |
|----|-------------------------------|
| A | 人の問題行動に起因する危険事例 |
| B | 人にもヒグマにも非がない危険事例（シチュエーションが危険） |
| C | ヒグマの問題行動による危険事例 |

- 「人の問題行動」は知床半島ヒグマ管理計画に記載された、目標③利用者・地域住民による問題行動のうち、「悪質」または「非常に悪質」と位置付けられた行動（餌となるものの管理の不徹底、ヒグマへの接近（ヒグマとの距離の目安は 30m 程度）や追い回し、餌付け等）とする。また、「不適切」と位置づけられた行動であっても、注意を受けているにも拘わらず対応を怠るという行動も含む。
- 「ヒグマの問題行動」は、行動段階 1+や2、3にあたる行動とする。
- そのほかに危険事例（A～C）に繋がる可能性の高い事例（カテゴリーD、注意事例）が存在する。

【危険事例の具体例】

| 種類 | 具体例 |
|----|---|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・観光客が車内からヒグマに餌付けをした ・カメラマン 9 名が車外で、至近距離からヒグマの撮影をしていた ・釣り人が放置していた荷物をヒグマに荒らされた ・家畜や飼育されていたヤギ・犬がヒグマによって食害された(注意喚起後対策を怠ったことで発生) ・夜間、軒先に干しておいた魚をヒグマに奪われた |
| B | <ul style="list-style-type: none"> ・知床峠を走行中のサイクリストがヒグマに追いかけられた ・森を散策中にヒグマと至近距離で遭遇し、ブラフチャージされた ・停車中の有人車両にヒグマが 2~3mにまで接近した ・登山者にヒグマが 5mにまで走り寄ってきた ・牧場主が牧場入口でヒグマ親子連れと遭遇。ヒグマは人を気にせず向かってきた ・住宅地(ゾーン4)にヒグマが侵入、人とヒグマが近距離で遭遇した。 ・誘引物(シカや海獣類の死体など)に餌付いた状態のヒグマに人が近距離で遭遇した <p>【出会い頭の遭遇、ゾーン4で人とヒグマが近距離で遭遇など】</p> |
| C | <ul style="list-style-type: none"> ・家畜や飼育されていたヤギ・犬がヒグマによって食害された(初回または行動がエスカレート) ・遊歩道を散策中、利用者がヒグマから追跡された ・漁業番屋のトイレをヒグマが破壊した |

2. 注意事例について

【注意事例の定義】

その時点では即危険と言えないものの、状況が進行すれば危険事例に繋がりがねない事例を注意事例とする。

【注意事例の具体例】

| 種類 | 具体例 |
|----|---|
| D | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅地(ゾーン4)にヒグマが侵入するが、人との遭遇がない(夜間に侵入して出ていった場合など) ・住宅地の側溝に大量の魚の残滓が投棄された(ヒグマは餌付いていない、もしくはヒグマは夜間のみでの出没で人との遭遇がない) |

<参考情報>

2017年から2020年における危険事例の発生状況

表 12. 2017年度における危険事例の分類別及び注意事例の発生件数

| 種類 | 定義 | 発生件数 | | | |
|--------|-----------------|------|-----|-----|-----|
| | | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 合計 |
| 危険事例 A | 人の問題行動に起因する事例 | 7件 | 7件 | 0件 | 14件 |
| 危険事例 B | 人にもクマにも非がない事例 | 8件 | 2件 | 1件 | 11件 |
| 危険事例 C | ヒグマの問題行動に起因する事例 | 6件 | 7件 | 1件 | 14件 |

表 13. 2018年度における危険事例の分類別及び注意事例の発生件数

| 種類 | 定義 | 発生件数 | | | |
|--------|-----------------|------|-----|-----|-----|
| | | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 合計 |
| 危険事例 A | 人の問題行動に起因する事例 | 11件 | 11件 | 1件 | 23件 |
| 危険事例 B | 人にもクマにも非がない事例 | 11件 | 0件 | 0件 | 11件 |
| 危険事例 C | ヒグマの問題行動に起因する事例 | 10件 | 8件 | 1件 | 19件 |

表 14. 2019年度における危険事例の分類別及び注意事例の発生件数

| 種類 | 定義 | 発生件数 | | | |
|--------|-----------------|------|-----|-----|-----|
| | | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 合計 |
| 危険事例 A | 人の問題行動に起因する事例 | 16件 | 9件 | 0件 | 25件 |
| 危険事例 B | 人にもクマにも非がない事例 | 5件 | 11件 | 1件 | 17件 |
| 危険事例 C | ヒグマの問題行動に起因する事例 | 1件 | 2件 | 4件 | 7件 |

表 15. 2020年度における危険事例の分類別及び注意事例の発生件数

| 種類 | 定義 | 発生件数 | | | |
|--------|---------------------------|------|-----|-----|-----|
| | | 斜里町 | 羅臼町 | 標津町 | 合計 |
| 危険事例 A | 人の問題行動に起因する事例 | 17件 | 4件 | 0件 | 21件 |
| 危険事例 B | 人にもクマにも非がない事例 | 7件 | 3件 | 0件 | 10件 |
| 危険事例 C | ヒグマの問題行動に起因する事例 | 10件 | 1件 | 0件 | 11件 |
| 注意事例 D | 即危険ではないが、状況が進行すると危険に繋がる事例 | 36件 | 61件 | 2件 | 99件 |

※危険事例A＝管理目標③④、危険事例ABC＝管理目標⑦